

平成 23 年度 府立槻の木高等学校 評価報告書

1 めざす学校像

本校は、高い学力と高邁な精神を培い、21世紀を担う有為な人材の育成をめざす。

1. 規範意識の確立を図ることで、安心して学校生活を送ることのできる環境を整備し、文武両道の精神のもと学習活動とクラブ活動・生徒会活動などの特別活動の充実を期すことを本校教育の基本に据えている。特に学習活動については進学を重視し、3年間を見通しての学力の伸長を図り、生徒一人ひとりの自己実現を図ることを最大の目標とする。生徒一人ひとりの個性を大切に、高い学力を持ち自律性・社会性など良識溢れる豊かな人間性を持ち、国際感覚に富み、社会に貢献し、リーダーシップを取ることでできる人材の育成を図る。
2. 学校をめぐる情勢の変化に迅速に対応しうる機能的な組織運営に努めるとともに、他校の模範となるところは積極的に取り入れ、次代を担いうる生徒を育成することで、すべての生徒が充実感を持ち「入りたい」「入ってよかった」と誇りに思い、保護者や地域社会から「入らせたい」「入らせてよかった」と期待され信頼される学校を創る。
3. また、地域社会とのパートナーシップのもとで共創による学校文化の構築に努め、地域の教育センター的役割も果たす、地域の期待と信頼に応える「開かれた学校」をめざす。

2 学校教育自己診断における結果と分析・学校協議会における提言内容

学校教育自己診断の結果と分析 [平成21年11月実施分]	学校協議会における提言内容
<p>教職員 ・生活規律に関する指導や、その効果については約90%の教職員が肯定的に評価している。</p> <p>・教育課題解決のための校内研修組織の確立や計画的な研修については、肯定的な回答が40%弱と低く、その充実は次年度の課題である。</p> <p>生徒 ・「学校が、生活規律や学習規律などの基本的な生活習慣の確立に力を入れている」ことには約90%の生徒が肯定的に評価している。また、実際にも「朝食は毎日採っている」、「学校や家庭などでの挨拶はきちんとしている」と90%弱の生徒が回答しており、その効果があがっている。</p> <p>保護者 ・生活規律・学習規律に関する回答からは、生徒と同様の結果がでている。保護者は90%を超える方が肯定的な評価をしていることから、この点に関する本校の教育をより評価していることがうかがえる。</p>	<p>第1回 (7/23) テーマ「本校の次の10年を見据えて～教育政策として検討すべきことは何か～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・性急に変化を求め過ぎず、目的づくりを大切にすべきだ。 ・堅固な組織づくりが大事だ。 ・変化ではなく進化という意識で、10年ごとの仕掛けを考えるべきだ。(中高一貫校をめざすこともあるのではないかと) ・柱として追求すべきものを選定し、メッセージ性を堅持することが大切だ。 ・「槻の木高校の組織の一員」としてから「社会や世界の組織人として」へと子どもの自覚を成長するような教育活動が望ましい。 <p>第2回 (12/17) テーマ「学校力を高めるために～生徒の意欲向上と教師の力量形成から～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕掛け」をつくることによって教師の力量は高まる。 ・うまく参考書と問題集を利用する力を付けるなど、自らの伸びを測る仕掛けが有用だ。 ・校種を超えた自主的な若手教員研修を実施し、力量形成を図るべきだ。 ・「こういう人間に成長してほしいからこんなことに取り組んでほしいんだ」など、学校と教師の目的をはっきりと生徒に伝えることが必要だ。 ・「文武両道」を今一度再考すべきである。槻の木高校が取り組む教育活動にもっと相応しい学校形態があるのではないかと。普通科単位制という枠組みでよいのか。 <p>第3回 (3/17) 予定 テーマ「今年度の新たな取組と次年度以降に向けての精選～次の戦略的教育活動として～」(仮題)</p>

3 本年度の取組内容及び自己評価

	本年度の重点目標	具体的な取組内容	取組内容の自己評価
取組み①教育活動等	学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間は平日1年で10分、2年で5分、休日1年39分、2年13分の増となったが、予習での増は課題 学習到達度の低い生徒へは特別学習会を定期考査ごとに実施した。 ノート指導による学習意欲の喚起は生徒のやる気を引き出している。 新教育課程、難関大学対応はほぼ完成 回数の増など面談の充実による生徒の把握と進路指導への教師の働き掛けはさらに重要となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習時間は確保できるようになってきたが、予習での増は課題 講習参加者は70.2%。最後まで減少せず満足度は高かった。 ノート指導による学習意欲の喚起は成功、今後も継続 欠点保持者2年前期12%、良い方向 新教育課程、難関大学対応は完成したが、今後も絶えず見直す必要あり。 面談の充実による生徒の把握と進路指導への教師の働き掛けはさらに重要と認識、回数は検討課題
	生徒指導の徹底	<ul style="list-style-type: none"> 「使える英語プロジェクト」事業で英語特設レッスン実施（週5日、60名参加）、1年全員TOFELitpテスト受験、TOFELゼミナール開催（2日間：56名）、ボキャブラリーコンテスト実施（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> 「使える英語プロジェクト」事業で生徒の英語学習に対する関心、意欲は高まり、力も着きつつあるのではないかと考えられる。TOFELitp377点以上は16%にとどまった。今後の指導を継続
	進路指導の向上	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数は4月から12月の減少、年平均3人/日以下 精神科医活用モデル事業実施 センター試験受験者数は73.9%だが7科目受験者が増加 志望校検討会議の実施（3年全員）資料の収集と内容がまだまだ不充実である 3年冬期講習15講座、155人のべ2331人参加（昨年より7講座、のべ1000人増） 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数は毎年減少、無届においては年平均3人/日を維持。規範に識の高まりを実感している 精神科医活用モデル事業は有用であった センター試験受験者数はまだ少ない、90%をめざしたい 志望校検討会議の実施（3年全員）資料の収集と内容の充実が課題 3年冬期講習15講座、155人のべ2331人参加（昨年より7講座、のべ1000人増）
取組み②学校組織の運営等	校内体制・組織の確立と円滑な運営	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用により事務作業のスリム化を図った。時間割の配布、講義室予約などICTを利用して実施。また、会議を減らすため掲示板の活用も図っている。 若手教員の研修会（スキルアップ研修）を6回実施。 静岡県立富士高校、富山県立砺波高校に派遣予定 職員研修は全教員では2回、その他参加自由3回研修を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用による事務作業のスリム化はまだまだ不十分である。さらなる活用を図りながら進める必要がある。職員会議を月1回にするにはまだまだ時間を要する。 若手教員の研修会は有用であった、今後も継続する。 富山県立砺波高は日程が合わず中止他府県公立の視察は価値が高い。 研修の種類、回数の増加を検討する。
	教職員の資質向上（人材育成）		
取組み③地域連携・学校協議会	実行できる危機管理体制の確立と維持	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ平均月3回、メールマガジンは週1回配信。 	<ul style="list-style-type: none"> ホームページ、メールマガジンの配信もほぼ軌道に乗ってきた。内容、配信回数は今後も検討していく。メールマガジンの登録者は約85%
	学校情報の発信の工夫と充実 地域人材の活用工夫	<ul style="list-style-type: none"> 槻の木MANABIカフェ2回実施 8/21奥本前高槻市長、12/24教育産業奥田氏の講演、生徒・保護者・地域住民40名ほど参加。 学校協議会委員からは様々な取り組みが生徒を伸ばすために、組織的に行われていると評価されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 槻の木MANABIカフェ、参加者には好評であった。しかし地域住民の活用と参加のためには広報を考える必要がある。 保護者アンケートはしていないがPTA実行委員会では学校満足度90%以上 学校協議会委員からは良い評価をいただいたが、常に円滑な学校運営のため組織改善を考えておく必要がある。